



ダイヤモンド
シティ
小美玉
見つける。
みがく。
光をあてる。

もっと小美玉を語りたくなるマガジン

広報
**おみた
たま**
第213号

2023年
December

12

contents

[特集] ただいま、おみたま。	2-5
わだい	6-9
TOPICS	10-14
四季の歌	15
4コマ小美玉暮らし	16



広報
おみたま
第213号

ただいま、

おみたま。

「地元に戻るか、帰らないか」。
故郷を離れて暮らす人なら、
誰もが一度は考えることかもしれません。
今回の特集では、小美玉市に帰郷した
2人の「帰ってきたひと」に話を聞きました。
地元で自分らしく暮らす、
それぞれのストーリーをご紹介します。

今月の表紙



外の内 とのうち 加奈 かなさんは、代々続く酪農一家の4代目。夫の智則 とものりさんと3人の子ども はじめ（一くん、大くん だい、仁くん じん）の家族5人で撮影しました。

10年前、Uターンで小美玉市に帰ってきた加奈さん。「周囲の歓迎が温かかった」と当時の心境を語ってくれました。

➔詳しい記事は4ページへ

地元で頑張る同世代の姿に
自分の考えが変わった

地元で起業しようと一念発起して、今年4月に空のえきそ・ら・ら近くの小さな店舗でアイスクリーム店を開業しました。柿や卵などの地元産食材を使ったアイスを作って、週末を中心に店舗やイベント出店で販売しています。

生まれ育った小美玉を出たのは、高校卒業時。外に出て広い世界を見たかったのと、小さい頃に料理人に憧れていたのもあり、東京の料理専門学校に進みました。卒業後は専門学校のスタッフとして大好きな料理番組の仕事に関わったり、飲食店や移動販売、営業の仕事をしたりと、さまざまな経験を積む充実した日々。東京での暮らしは楽しくて、地元に戻るつもりはありませんでした。

転機は、コロナ禍の2020年9月に一時帰省したとき、石岡市八郷地区で柿農家をしている高校の同級生と久々に再会したことです。意気投合して柿の収穫を手伝うことになり、地元



昨年は「小美玉やってみるプロジェクト」に参加。市内で何かを始めようとする人たちと出会えました。

井能さんが参加した「やってみるプロジェクト」を紹介 Watashi Omitama vol.4



詳しくはこちら

市民主体のシティプロモーションを紹介する魅力発信誌。「私、小美玉」「渡し、小美玉」の二つの意味が込められた冊子は市内の公共施設やさまざまなお店で「渡し」しています。vol.1~4があります。



帰ってきたひと



U
ターン
3年目

小さなアイス屋
OPPO(オッポ) 店主

いのう さとし
井能 隼 さん (29歳)

これまでに住んだ場所

- 0~18歳 小美玉市
- 18~26歳 東京都練馬区、品川区
- 26歳~ 小美玉市
(東京との二拠点生活)

- 📍 小美玉市山野1657-4
- ☎ 070-8548-9466
- 🕒 11:00~15:00(土日のみ)
営業日はInstagramで
ご確認ください。



で頑張る同世代ともつながりができませんでした。以前は独立したいと思いつつ「茨城では無理」と考えていましたが、彼らと話すうちに「できるかも」と考えが変わりました。「規格外の柿を使ったアイス」を思いつき、起業の準備を始めました。仕事も生き方も、自分で決めたいという思いがあります。今後もやりたいことを見つけて、行動していきたいです。店を始めてお客さんと話すようになり、地元の人々のニーズに合わせた気持ちが増えました。「仕事帰りにお茶する場所がほしい」という声を聞いたので、時間を過ごせるよう客席を設けるなど、店も少しずつ変化させていきたいです。



ただいま、

おみたま。

「やりたい！」が尽きない 小美玉での暮らし

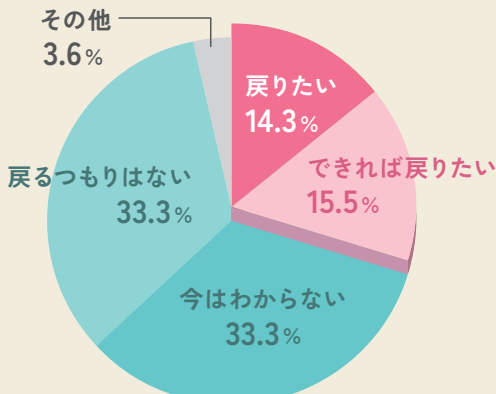
28歳のときにオーストラリアから小美玉市に帰ってきて10年目です。今は家業の牧場経営と子育てをするかたわら、新規事業のミルク工場の準備を進めています。

代々続く酪農の家に生まれ、小学生のときには曾祖父が町長をしていました。牛や酪農は好きでしたが、まちのどこに行っても「外之内さんの家の子」と見られるのが苦手で、子どもの頃から「誰も知らないところに行きたい」と思っていました。大学進学を機に、念願の東京での一人暮らしを開始。在学中に出会ったダイビングとサーフィンに没頭して「海の近くに住みたい」と思ったことから、卒業後にオーストラリアに移住しました。現地の学校で英語やトレーナーの勉強をしながら、ダイビングのガイドをしていました。

当時の生活は自然とともに暮らす充実した時間でしたが、与えられた環境で力強く生きる動物たちを見ながら、自分の存在意義や役割は何かと考える日々でもありました。そんなときに頭に浮かんだのは、このまちの風景。「生まれ故郷だから」そでできる

Q. 小美玉に戻りたいですか？

(回答者 84名)



出典:小美玉市人口ビジョン・総合戦略に係るアンケート調査
(2019年)の転出者アンケート(18~39歳対象)

転出者の29.8%が「戻りたい」と回答

— 戻りたい理由は？

- (働く場所がある (4票)
- (安心して子育てができる環境がある (4票)
- (公共交通が便利 (3票)
- (住みたいと思える住宅地がある (3票)

「戻らつもりはない」人は33.3%

— 何が改善されれば戻りたいですか？

- (働く場所がある (4票)
- (公共交通が便利になる (4票)
- (住みたいと思える住宅地がある (4票)
- (病院や福祉、介護施設の充実 (3票)

市民が語る！まちを知る！ おみたま暮らしを発信中



詳しくはこちら

市民レポーターによる地元密着ウェブメディア TOWN JOURNAL OMITAMA

市民記者が市内の食・人・お店などの地域の情報を取材し、「私のおすすめ」として紹介しています。



詳しくはこちら

小美玉市のローカル情報をお届け Omitama Times

小美玉市を楽しく元気にするために活動する市民団体“Omitama Shigoto”（仕事+私事+志事）が、小美玉のローカル情報を伝えるライブ配信番組。YouTubeで過去の番組もチェック！



詳しくはこちら

小美玉市移住定住サイト おみたま暮らし

小美玉市で暮らすひと・モノ・コトを紹介。自分らしい「おみたま暮らし」を見つけるヒントが得られます。



詳しくはこちら

移住定住情報発信番組 おみたま暮らし オンライン

市民が自分の「おみたま暮らし」を語る番組。過去の番組はYouTubeチャンネルで公開中です。

ダイヤモンドシティ小美玉
YouTubeチャンネル

ダイヤモンドシティ小美玉
Instagramアカウント



帰ってきたひと

U
ターン
10年目



株式会社美野里牧場 代表取締役

とのうち かな
外之内 加奈 さん（38歳）

これまでに住んだ場所

0～18歳 小美玉市

18～23歳 東京都町田市

23～28歳 オーストラリア

28歳～ 小美玉市

「ことあるのでは」と思い、地元に戻ることにしました。
実家に戻ると、近所の人や酪農組合の人たちが「よく帰ってきたね」と笑顔で歓迎してくれました。牧場経営のことも周りの人たちが教えてくれて、大きな支えでした。子どもの頃は地域のつながりの強さを敬遠していましたが、大人になってその温かさを感じています。小美玉に根を張ってから、やりたいことが湧いてきて尽きません。牧場を通して社会貢献できるように、自分のペースで前進し続けたいです。

小美玉を出たひとの思いは？

アンケートから知る 転出者のリアル

進学や仕事の都合などで市から転出した若者向けに行ったアンケートの結果から、転出者の本音を探ります。

小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ダイヤモンドシティ・プロジェクト

人口減少対策や定住促進のため策定された第2期総合戦略に基づき、施策を行っています。



詳しくはこちら